

投資家の皆さまへ

ベトナム株式市場の見通しについて

■ベトナム株式市場

昨年 2020 年のベトナム株式市場は新型コロナウイルスの影響を受け、2 月から3 月にかけて大幅に下落しましたが、年後半にかけて堅調に推移してきました。2019 年に続いてベトナムの輸出が大幅に伸び、12 月 17 日には米財務省がベトナムを「為替操作国」に指定しました。一時 1.4%程度急落したものの、国内投資家による新規参入の資金が株式市場をけん引しており、VN 指数は新型コロナウイルス感染症第一波の感染が拡大した 3 月末場中につけた 650 ポイントから 1,100 ポイントを突破してきました。

これらの株式市場上昇の背景には以下のことがあります。

- ①第 4 四半期の GDP 成長率（前年同期比）が 4.48%と第 3 四半期の 2.69%から大きく伸びたこと。
- ②中央銀行が金融緩和策を継続したこと。
- ③新型コロナウイルス感染症を効果的に封じ込めたため、生産量、新規受注、雇用が急回復したこと。
- ④12 月の国内投資家の口座開設数は前月比+53%増の 6 万 3,243 口座となり、過去最多を更新したこと。

これらの点が背景となり株式市場を支えてきました。

昨年末の VN 指数は前年比 14.9%高の 1,103.87 ポイントで引けています。



上記データは過去の実績であり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。（出所：ブルームバーグ）

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託の売買を推奨・勧誘するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



■ 今後の見通し

世界はコロナ禍にあり、その勢いはまだ止まりません。日本では第三波が来ており、米国、欧州では想像以上の事態が起きています。一方、ベトナムは第一波時には死亡者ゼロ、第二波においても早めの対応をした結果がベトナム経済において際立った効果を出しています。IMFによる経済成長率予測では2021年は6.7%とコロナ前の水準に戻ることを予想しており、世界経済と比較するとベトナム経済の一人勝ちともいえる状況です。

コロナ対策について加えて言及しますと、ベトナム保健省は英製薬会社大手のアストラゼネカから1,500万人分の新型コロナウイルスワクチンの供給で合意したと発表しました。第1四半期中に調達する予定です。さらにワクチン調達で4カ国と交渉しつつ、国内開発も治験段階に入っています。因みに2021年1月5日時点で新型コロナウイルスの感染者数は、累計1,504人です。ベトナムは新型コロナウイルス感染症を効果的に封じ込めていることから、引き続き好調な企業業績と経済を背景に、2021年も堅調な相場展開を予想しています。2020年第3四半期の企業業績ではV N指数で構成される企業30社の内、29社が増益で、1社（ベトジェットエアライン）のみが減益でした。

12月末現在、ベトナムVN指数の2021年度の予想PER（株価収益率）は14.11倍と、TOPIX／東証株価指数（約25.66倍）や米S&P500種指数（約27.04倍）と比較し割安感があります。企業業績や経済のファンダメンタルズが好調なベトナム株式市場は、外国人持ち株比率の制限が緩和される中、上場企業数の増加や政府保有割合の低下が海外からの資金流入を促すと見られており、長期的に堅調な相場展開を予想しています。また、米中貿易摩擦の継続する中、数多くの自由貿易協定の恩恵を受けることで、ベトナムへの海外直接投資（FDI）の拡大につながっており、海外投資家によるベトナム投資人気の高まりも、市場の成長に寄与すると見えています。英国の著名シンクタンクは、ベトナム経済が2035年には現在のGDPの規模が5倍になるとも予測しており、投資家の皆さまにとって、ベトナム株式市場は長期投資先として有望な市場と考えております。また、ベトナムは世界でも稀にみる魅力的な投資国であると思っております。